時事新報定價
時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細なる商況物價の報告あり其代價郵送料は左の如し
一號　貳錢五厘〇一ケ月　前金五拾錢〇三ケ月　前金壹圓四拾五錢〇六ケ月　前金貳圓八拾五錢〇一ケ年　前金五圓六拾錢〇月曜日休刊（此他大祭祝日年始年末等一切休刊セズ）
時事新報社ヨリ直接ニ郵送スルモノハ定價ノ外ニ一ケ月十三錢ノ郵送料ヲ申受ク
時事新報廣告料（前金）

一行五號活字十四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十三錢	十一錢	十錢五厘

本社へ寄稿に付
東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を掲ぐるみと雷から ず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する筈と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論説を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんみとを請ふ
時事新報社ニ達シタル投書ノ原稿ハ凡テ寄稿者ニ返ヘサズ又本社ニ保存セズ

時事新報

官邸一先づ廢す可し

此頃聞く所に據れば行政整理委員會は殆んど全會一致を以て官邸の廢止を主張し内閣大臣中には同意者もあり又不同意者もありて未だ容易に決せずと云ふ整理委員は如何なる趣意を以て其廢止を稱ふるや之に同意せざるは如何なる理由を以てなるか我輩の知らざる所なれども此頃局外者の所見を述べて參考に供するも敢て無用に非ざる可し讀者の知る如く官邸の廢止は我輩の宿說にして之を紙上に記したるみと幾度なるを知らざれども我輩の廢止を云ふや官邸は鐵頭鐵尾無用なるが故に廢す可しと主張するに非ず唯無益の華美黄澤を煌かして社會表面の虚點と爲り自然政治上の煩累を多くするの情もあれば政府の爲めに計り民心を和ぐるの一手段として先づ之を廢す可しと云ふに在るのみ熟ら〳〵歐米の事例を案ずるに今の文明世界に立て日本はその國柄にてあれば大臣が執務の便利の爲めに官邸を備ふるは決して奢の沙汰と云ふ可からず瓦斯其他一切の費用も年々千圓乃至千五百圓位のものなりと云へば一圓の財政に取て瑣々たる事なり彼の文明諸國に於けるが如く大臣の官宅を本省の樓下或は其構内に設けて純然たる執務の目的に供するものなれば我輩は一概に其廢止を云ふ者に非ざれども如何せん今日までの實際に照すに日本の官邸は執務の必要に迫られて設けたるものと云ふ可からざるが如し例へば文部省は竹橋外に在て大臣の官邸は永田町に在り、内務省は大手町に在て官邸は内幸町に在り、農商務省は築地に在て官邸は富士見町に在り執務の便利の爲めなりと云ふも誰か常に信ずる者あらんや曾は是迄の實例に依れば其私邸を官に賣渡し之を官邸として住ひたるなぞの奇談もありし、ふとにて亀外警侈黄禍の弊害は枚擧に遑あらず世間の物議を騒したるも尚鮮の次第なり鉱るに今や行政整理委員會に此說あるみと幸なれ外務大臣の官邸の如く本省の構内に在りて眞實必要なるものを除き斷然みれを廢して並に種々の弊害を一掃すると共に世の物論を絶つみと政府の爲めに計りて今日の良策なる可し或は尚は其必要を稱ふる者あらんか請ふ實例を擧げて之を證す可し現に遞信大臣は鐵道局の本省に接近せざるは不便なりとて其官邸を以て同局に宛て大臣は私邸より通勤して別に差支を見ざるに非ずや官邸一先づ廢止して可なり

蓋し我輩が廢止の上に一先づの文字を冠したるは微意の存する所あればなり文明繁多の世界に國して内外の政務次第に忙しきに至らば實際上是非共官邸を設くるの必要に迫らるゝみとあるも可し既に今日に於ても若しも外務大臣の官邸を廢するに於ては大臣は日々王子西ケ原の果より霞ケ關まで通勤するの不便を生じ來るにても知らるる可し左れば我輩は絶對的に官邸廢止を主張するに非ず却て其新設を要するの日あら待つ者なれども前述の理由に據り此際斷然廢止の沙汰あらんみとを希望する者なり

官報

○陸軍省訓令甲第四號

北海道廳　府縣　沖縄縣ヲ除ク

陸軍召集旅費現金前渡ニ係ル出納ノ檢査及責任解除ヲ會計檢査院法第十六條ニ據リ明治二十六年度以降會計檢査院ヨリ當省ヘ委託セシヲ以テ之ヲ各師團監督部ヘ委任ス此旨心得ヘシ

明治二十六年七月三日　陸軍大臣侯爵大山巖

○司法省告示第三十四號

高松地方裁判所管内高松區裁判所津田出張所本月十五日ヨリ開廳ス

明治二十六年七月三日　司法大臣芳川顯正

雜報

○大坂市會の決議　大坂市會は去る一日午後二時より同地商業會議所内に開き先妻事會員半數退任者の補欠撰擧を行ひしに擂本孝良（新任）、田村太兵衛、早瀬太郎三郎、石川市兵衛の四氏當撰し夫より北區役所新築に關する假廳舍（同區鳴尾町本泉寺）桃山避病院貸渡の件を議決し續て傍聽を禁じ協議會を開き彼の大坂市水道鐵管不足五千三百噸の鑄造に係る東京鑄鐵會社實視の水道委員前川漠三氏より同會社に係る實況を報告し種々質問協議の上遂に己前市會の決議通り外國品を購入する事に決定し午後四時三十分閉會したるよしなり

○東京商業會議所總會　去る一日坂本町銀行集會所に於て開會する筈なりしが出席員數二名不足の爲めに遂に延會となり明五日午後四時より同じく銀行集會所に於て更に總會を開くよし

○鐵道會議々員の席次及宿所　鐵道會議の議員は召集に應じて去る一日遞信省内管船局の樓上に會し抽籤を以て更に左の通り席次を定めたりしと又各議員現在の宿所は左記の通りなりと云ふ

議長　番號次第、陸軍中將
一番　横須賀鎮守府司令長官
二番　横須賀鎮守府參謀長
三番　横須賀鎮守府參謀
四番　陸軍少將大佐
五番　陸軍少將大佐
六番　土木局長兼技師
七番　鉄道局長
八番　横須賀鎮守府參謀
九番　陸軍次官、少將
十番　横須賀鎮守府參謀
十一番　國債局長心得
十二番　貴族院議員
十三番　遞信次官
十四番　貴族院議員子爵
十五番　貴族院議員子爵
十六番　農商務次官
十七番　貴族院議員子爵
十八番　海軍大佐
十九番　貴族院議員
二十番　同
以上常議員以下臨時議員
元大藏商業會議所副會頭
甘一番　陸軍歩兵少佐
甘二番　東京商業會議所頭取
甘三番　鐵道關係事務官
甘四番　陸軍工兵少佐
甘五番　遞信書記官
幹事
若尾　逸平　本所、千歳、三三
鈴木　大亮　芝公園第十二號
谷　干城　牛込、市谷、田、三、二二
廣瀬隆一郎　永田、二、八
堀田　正養　牛込、二十騎、二七
角田　秀松　南鳥鳴、中通谷、一七
村野　山人　築地、新富六、一〇江川方
渡邊　洪基　芝、南佐久間、二、五
川田小一郎　牛込、新小川、二一〇
田村左兵衛　日本橋、數寄屋、鳴ケ方
山口　圭藏　四谷、坂、五七
澁澤　榮一　日本橋、兜、二
中根　重一　牛込、矢來、三
山根　武亮　牛込、加賀、二五
中橋徳五郎　麹町、五番、二二

○播但鐵道會社株主總會　同會社は此の程本発狀を下附せられしに就き來る十四日午後一時より日本橋區坂本町銀行集會所に於て株主總會を開くと云ふ

右の議案は左の如し

一、本會社創立に關する件
一、本會社重役撰擧の件
一、本會社株式一千株を現株所有者より五分宛遞減して御料局へ御持株拠出の件

○大坂鐵道會社會計員の不始末　前號の電報に記載したる大坂鐵道會社會計擔當者和田忠一（四十一）同海記方正木與一（二十一）の兩名が共謀の末同會社の場金高の中凡一萬五千圓計を費消し重役の手前をつくり居たるも遂に此頃に至り會計主任山本誠之氏の發見する處となり和田忠一は去る二十九日北の新地靜觀樓に潜伏し居たる處を憲兵の爲に拘引せられ正木與一は早くも逃走して居所判然せざるよしなるが目下取調中にて詳細の事實は容易に知り難きも右の兩人は先頃より或る仲買人の手筋に依り大坂株式取引所の株券賣買に手を出し大坂鐵道株七八十圓の頃を見計らひ最早此上騰貴なかるべしと賣方と出掛け一躍千金の利益を得んが爲めに頻りに賣り出したれども世間の大勢は金融緩慢株券騰貴の一方に傾き折角の計畫は皆反對の結果に陥り已むを得ず帳面を誤魔化し追證乗替金等に支拂ひ夫是する中遂に現今の高直（五十圓株）百十餘圓に騰貴し最早首も廻らぬ場合に立至り遂に山本氏の質問を受け辨解の道なく袋を叩せしにより會社に於ては用捨なく憲兵隊に出訴し今回逮捕されしものなりと云ふ此事に就ては株主中會社重役の不取締を喋々するものあれば該金額償還方は何一人の責に歸するか未だ判然せざるも事に依れば重役一同の責任に歸するも知り難しと云ふ

○大坂の綿花相場　大坂に於ける綿花の相場は今回海外爲換相場の暴落後日々騰貴の一方に傾き去月二十六七日頃より本月一日に掛け値々の間に米國孟買綿は各々百斤に付き二圓方支那綿一圓方の暴騰を來したれども爲換相場の低落未だ其見當の定まらざる爲め賣買取組至て薄く殆んど見送の姿なり去る一日内外綿會社の改正價格は孟買上等ブロウチ百斤二十一圓同中等ボウナガー十九圓同下等カンガム十八圓、米國ミドリング二十五圓、支那棉綿十八圓七十錢同特別二牌十八圓上海ナカイ十八圓通州上等十七圓八十錢安南十三圓三十錢にて右の中孟買綿の價格は本年一月の高直二十三圓五十錢に比し尚は二圓五十錢方の下直にあり當時と此頃の爲換相場を比較し其割合に從ふて計算し來れば今後一層の高直を見るも知る可からずと云へり

○大坂紡績絲の激昂　大坂の紡績會社は去月中旬頃より二十五六日頃迄最強盛世の爲ゆか廣も沈靜の景況なりしに同日以後稍や活氣を帶びたる景先き今回爲換相場の暴落を來し二十七日左樣二十手八日に八十三圓五十錢に飛放れ三十一日五十錢に飛放れ三十一日十圓の高直を唱へたり今は畢竟爲換相場の暴落を唱へるも實際の賣買取引高は寡すら爲換の變動を來し左れば紡績會社又は結決して貯藏品なく何れも相場の稍や落付く迄の間後一層氣配を強むるの手絲は矢張九十圓内外居りしとなり

○堂嶋の定期米　なりしが流石天災の時節懷の氣勢あり而して結繭りし七月限なり裏面れども内實は大凡十萬其重なる買方は石卯筋は或る銀行家大津、京都伊、古九、北平、橋伊筋からず却て買方の石卯たる勢ひに乘じ多頓の地受渡の期は八月より決れば米質十分枯れ切り決して當時の相場より何なる天災のあらんも運動し勝敗を本月中一又賣方に在りては米商方の内幕を觀察せし樣及中國其他へ現米買入の準備を立ざる樣なり案外に收穫ありしと頃生育も宜しく此分にて高場に現米の寄集すれば何處迄も實況がん覺今後見るべき變動もあり

○神戸の輸出米　は期にて精米はオツ〳〵引圓滑ならざるにや殆ん換相場下落より彼是賣買景氣は今一ト息と云へり

○地方通信

○函館米況　は在米の減日來下も場所の大漁なる捌行き宜しきも玄米は

○久六嶋の粉鈔　青森横はる久六嶋の漁業に部ありしが近來又々專有漁業の說起りて粉鈔起え之れあれに依りて値かしなき爭ひに空しく時日に陥りて大切の漁場を逸まるとと調場の漁夫等は

○磯濱鐵道會社　茨城